

浄水場整備調査特別委員会行政視察

浄水処理方式を視察

浄水場整備調査特別委員会の一行14名は、4月12日から14日まで東京都水道局三園浄水場、福井県日野川地区水道管理事務所、京都府福知山市下荒河浄水場を視察し、浄水場の浄水処理方式などについて調査しました。

●三園浄水場

昭和46年4月に給水を開始し、平成19年10月から東京都水道局内では先駆けて、凝集剤を注入後、沈でん前段ろ過、オゾン接触、生物活性炭吸着、後段ろ過等の浄水処理を行い、給水は全量高度浄水で行っております。東京都では平成25年度末までに各浄水場において全量高度処理を導入していく計画を立てて工事を進めていくことでありました。

●日野川地区水道管理事務所

福井市をはじめとする3市2町へ給水を行っており、平成18年度から一部給水を開始して順次給水量を増やし、平成25年度に全量を給水する計画でありました。

榊屋ダムから日野川への放流水を取水し、セラミックによる

膜ろ過方式を採用し、除マンガン、塩素減菌等の浄水処理を行っております。平成20年7月のゲリラ豪雨の際、取水口濁度519度、原水濁度327度を記録しましたが、まったく問題なく余裕を持って処理できたとの事でありました。

●福知山市下荒河浄水場

福知山市上水道第5次拡張計画に基づき6簡易水道を上水道へ統合するために、必要な水量の確保と市中西部における拠点として平成19年6月に完成しています。給水人口は、約1万7百人、浅井戸を水源とし、セラミックによる膜ろ過方式を採用し、除マンガン、遊離炭素除去、塩素減菌といった浄水処理を行っております。

地下水であり塩素減菌だけでも可能な水質でありましたが、クリプトスポリジウムへの対策、また、規模を縮小できたことによる初期投資費用が急速ろ過方式と同程度に抑えられることも膜処理を選んだひとつの要因であるとのことでありました。また、急速ろ過よりも膜ろ過の方がミスも少なく安全性が高いといった現場の意見を聞くことができました。

消防議員連盟研修会

6月24日開催

消防議員連盟は、平成18年6月、災害に備える意識を広め、安全と平和への目的に、消防団に所属する議員9名で構成され現在に至っております。これまで年2回の研修会等を開催し、今後の課題や計画について検討を重ねていきます。また、消防団員としても、それぞれの地域で日頃の防災活動や火事などの災害発生時には現場に出動し、消火・救援の支援や市民の安全確保に努めています。



今回の研修会では、平成22年度の主要事業の説明を受けた後、秋田県の消防広域化計画の進捗状況や横手市の災害援助協定の締結状況などについて、消防本部や危機管理室の担当者から説明を受けました。会議の中では、消防広域化計画のあり方や消防救急デジタル無線整備事業について、活発な意見交換が行われ、消防広域化計画の進捗については、9月議会には一定の方向性を示したいとの報告がありました。

林活議員連盟研修会

4月21日開催

4月21日、大館市「木質ペレット」利用促進について参加者13名で研修しました。市役所で木質ペレットの取り組みについて担当より説明を受けた後、循環型社会資源リサイクルセンター(株)北秋容器工場を視察しました。木質ペレットは、山に残る間伐材などを粉碎し長さ数センチの円柱状に圧縮した木質燃料で、二酸化炭素(CO₂)を増加させないとされる



新エネルギーです。公民館や学校など計97台のペレットストーブを導入し、1台が30万円から50万円台と高額なため、まずは公共施設で使用し今後、更新時期にペレット化する方向でした。灯油との比較では、ペレットが1・37倍高く燃料の低価格化が課題といわれています。横手市でも山に眠っている間伐材が木質ペレットの有効活用につながる新エネルギーへの挑戦も必要と考えます。